

1 総括

令和4年度は、前年度の2月、3月に、つばきはらファクトリー、かいぜ寮での集団感染の影響を受けた出発となった。引き続き新型コロナウイルスの感染状況をみながらの対応となり、各事業所が感染防止に重点を置きながらも、利用者がストレスをためず生活できるよう、また本来の目的が達成できるよう、各事業所で工夫し対応を行った。またご家族の安心にも配慮した対応に努めた。

しかし、集団感染にはならなかったが、かいぜ寮で8月下旬に感染があり、隔離対応を余儀なくされた。さらに、12月から1月初旬に、かいぜ寮女子棟での集団感染、続いて男子棟、グループホームで感染者がでた。結果、重症化する方は出ず、また支援体制が厳しい中ではあったが、なんとか体制を維持して対応することが出来たことは幸いであった。今後一層の感染防止に努め、利用者が安全に社会生活を送れるよう工夫をしていきたい。

コロナ禍の厳しい状況の中ではあったが、ご家族や地域の皆様、関係機関等の皆様から法人、各事業所への継続したあたたかいご支援のおかげで乗り越えることが出来た。このことに対する感謝を忘れずに、さらに一層、利用者や地域への貢献を果たせるよう努めたい。

2 事業の総括

(1) 新型コロナウイルス関連

ア 感染予防対策等

- ・マスク、手洗い、換気、消毒、検温等感染対策の基本を徹底。
- ・各事業所にウイルスを持ち込まない、拡げない対策(アクリル板の設置や活動場所のエリア分け、職員の食事時の黙食の徹底等)とともに、衛生物品の確保。
- ・国、県からの情報共有及び圏域内での感染情報の共有。

イ 感染時の対応

- ・利用者、職員、職員家族等の濃厚接触、検査対象発生などの状況に合わせ、隔離対応や職員の勤務の調整を行った。
- ・県のイベントベースサーベイランス(EBS)事業による検査の実施。
- ・法人、各事業所が連携して感染対応や業務負担を補い合うなど対応を行った。
- ・陽性者の隔離対応を基本として対応した。(かいぜ寮:短期入所棟、グループホーム:ギャラリー)
- ・県、保健所に確認しながら対応を行った。
- ・職員複数名が宿泊施設等を利用し対応にあたった。

(2) 事業継続計画(BCP)の作成協議

感染症及び自然災害発生時の業務継続計画作成に向けて、事業管理会議、各事業所の会議等で検討を行った。また効果的な対策となるよう外部研修にも参加した。

(3) かすみ会まつりの実施

新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえ、法人としての催しは控え、利用者の楽しみの機会として、各事業所で、お楽しみ行事を企画・実施した。

(4) 社会福祉法人としての取り組み対応状況

ア 情報発信

- ・広報委員会を開催し、広報誌かすみ会だより(春夏号及び秋冬号)を発行。
- ・ホームページ、ブログ等のネットワークを活用し、情報発信を行った。

イ 地域における公益的取り組みの推進

- ・地域の福祉人材の養成

稲枝地区民生委員児童委員協議会研修(令和4年4月12日 かいぜ寮寮長)

多賀町民生委員児童委員協議会研修 (令和4年6月10日 かいぜ寮寮長)
強度行動障害支援者養成研修講師派遣 (支援グループリーダー)

- ・障害者への理解促進のための見学、学習機会の提供
街かどアート展への職員派遣及び作品展示
- ・交流施設こもれび、グラウンドの地域開放 (地域の会議、グラウンドゴルフ等の利用)
- ・彦根市総合避難訓練参加 (令和4年8月27日こもれびの福祉避難所開設訓練参加)

(5) 人材の育成と虐待防止

ア 理念、倫理綱領、職員行動規範の再徹底

- ・法人理念唱和を継続、NHKの特集番組「この子らを世の光に～共に生きる社会を目指して」を新人研修で視聴するなど理念のより深い理解と浸透を図った。

イ 外部研修・見学の実施

- ・虐待防止の見識を深めるための研修参加
- ・専門性、支援技術向上の研修参加

ウ コンサルテーションの導入

- ・行動障害等困難ケースの支援にコンサルテーションを導入するとともに、法人の虐待防止研修の講師として依頼した。

エ 虐待防止役職員研修の実施

- ・「障害理解から虐待防止を考える」をテーマに虐待防止研修を開催し、全事業所の職員が受講。現場に即した内容により虐待防止への理解が深まった。

(令和4年12月1日、令和5年1月10日・19日の3回に分け実施)

(6) 物故者法要 (令和4年11月5日)

交流施設こもれびで理事長、事業管理職員、家族の会会長が参列し、光雲寺僧侶の読経により執り行う。一人ひとりの命の尊厳を守る法人行事として継続した。

(7) 障害者芸術活動について

街かどアート展に参画し、展示活動を行い、ぴかつ to アート展にも積極的に参加した。賢愚窯を利用しての陶芸作品の焼成については、社会福祉法人としての地域における公益的な取り組みに位置づけられるような地域の社会資源としての利用を検討しているが、具体的に進められなかった。

(8) 人材確保対策

職場説明会等積極的に参加し勧誘を行い面接の機会を持ったが採用には至っていない。どの法人でも人材が不足する中、1人の人材を何法人もが取り合う形になり、人材を確保することが厳しい状態である。

(具体的取組状況)

- ・求職者用パンフレット等の作成・就職サイトの活用・ホームページでの求人情報の発信
- ・ハローワーク、福祉人材センター主催職場説明会等への参画

(9) 安全運転に関する取り組み

令和4年度職域別無事故無違反運動 かいぜ寮、つばきはらファクトリーが参加し達成した。

3 具体的事項

(1) 評議員会の開催と検討事項

令和4年 6月16日 社会福祉法人かすみ会令和3年度事業報告他
令和5年 3月28日 社会福祉法人かすみ会令和5年度事業計画 (案) 他

(2) 理事会開催と検討事項

令和4年 5月18日 かいぜ寮居室壁面改修工事請負契約の締結について (決議の省略)
令和4年 5月30日 社会福祉法人かすみ会令和3年度事業報告 (案) 他
令和4年 9月29日 福祉・介護職員等ベースアップ等支援加算の支給に関する規程 (案) について他
令和5年 1月10日 経理規程の変更 (案) 他

- 令和5年 3月17日 社会福祉法人かすみ会令和5年度事業計画(案)他
- (3) 監事監査の開催
 令和4年 5月19日 社会福祉法人かすみ会令和3年度事業報告書及び決算報告について
- (4) 安全衛生委員会の開催と検討事項
 職場内巡視の実施 (以降毎月実施)
- 令和4年 4月28日 令和4年度のテーマ他
 5月26日 食中毒対策 (産業医提案) 他
 6月23日 健康診断及びストレスチェックの結果他
 7月28日 健康診断の結果を見てのアドバイス (産業医より) 他
 8月24日 メンタルヘルスケア (産業医より) 他
 9月22日 ワークライフバランス他
 10月27日 危険個所の改善 (転倒リスクの高い場所) 他
 11月24日 ハラスメント (産業医より) 他
 12月22日 疲労回復習慣他
- 令和5年 1月26日 花粉症対策他
 2月22日 ストレスに強くなるには他
 3月23日 生活習慣病予防 (産業医より) 他
- (5) あんしん委員会の開催と検討事項
 令和4年11月 1日 苦情及び事故報告
 令和5年 2月20日 苦情及び事故報告
- (6) 虐待防止委員会の開催と検討事項
 令和4年10月27日 各事業所の虐待防止対策の取り組み状況について
 令和5年 2月20日 各事業所の虐待防止対策の取り組み状況について
- (7) 事業管理会議の開催と検討事項
 各事業所の責任者が事業の情報・状況・方針の共有を諮る為、話し合いを行なった。
- 令和4年 6月14日 滋賀県の緊急事態宣言に係る各事業所の対応等について他
 令和4年 8月 2日 感染対策についての確認について他
 令和5年 1月24日 各事業所の近況、進捗状況について他

1 総括

(1) 新型コロナウイルス感染症に関して

ウイルスを持ち込まないように利用者やご家族には面会や帰省、外出等を制限し、地域からの利用者には利用自粛を依頼するなど対応を継続した。また、かすみ会まつり、家族の会旅行、新年会等ご家族が参加していた行事についても、利用者のみとして、内容を変更して実施した。

前年度からの経験を踏まえ様々な感染拡大・防止対策をとってきたが、令和4年8月に男性利用者3名、12月上旬に女性利用者14名、12月下旬に男性利用者1名が新型コロナウイルスの陽性者となった。男性利用者は陽性者が少なかったこともあり、短期入所棟を活用し隔離対応がとれたことでいずれの時期も感染拡大を防ぐことができた。しかし、女性利用者は陽性者も多く、利用者の特性や職員体制もあり、うまく隔離対応がとれず、結果的に職員も含め多くの方が陽性となってしまった。幸いにも陽性になった方は症状がすぐに落ち着き、軽症であったため、療養期間も含め施設で過ごすことができた。

(2) 利用者に関して（令和5年3月31日現在）

定員54名に対し、令和4年度中に女性利用者1名が疾病により入院し、その後療養型病床へと移行となった。また男性1名が入所されたことから、現員45名（男性26名、女性19名）となり、また地域から生活介護を利用されている方は、新たに1名の方が利用され6名となった。

入所利用者の平均年齢は50.3歳（男性47.8歳、女性53.7歳）と、平均年齢は高く、高齢障害者といわれる状態にある方も依然複数名おられ、医療との連携が必要となり、本人の状態によっては施設では支えられない方もおられる。

2 重点課題に取り組んだ事項

(1) 入所希望者のニーズに応え、スムーズに利用ができるよう取り組んでいく

実施内容

- 令和4年1月の入所調整会議を経て、コロナ禍により延期になっていたが、今年度は入所に向けて取り組むことができた。湖東圏域内から男性の候補者は3名、女性は1名であったが、男性候補者の内2名は本人の状態や設備等の課題もあり、受入を断念した。残る男性1名、女性1名の利用者はコロナにより日程調整がうまくできず、次年度へ取り組みを持ち越した。
- 他の圏域で障害児施設からの移行により、女性2名が数回の体験及び短期入所を利用していただきながら、令和5年4月1日付けでの入所となる。

(2) 権利擁護意識の醸成を図り、求められる役割を理解し主体的に業務（行動）できる職員の育成を目指す

実施内容

- 効率的に業務が行えるように個別支援計画や業務報告書などの様式の見直しを行い、会議の内容も変更した。しかし、コロナ禍にあり、他施設の見学はできなかったが、強度行動障害支援者養成研修の他、オンラインによる研修に参加してもらうことができた。また研修に参加した職員は、研修内容の振り返りも兼ね、復命書ポスターを作製してもらい、掲示板に掲示することで他の職員とも研修内容が共有できた。
- 虐待防止のためのセルフチェックリストを6月と1月に実施し、結果を分析し虐待防止委員会に報告できた。

(3) 障害特性や状態に配慮しながら、健康に安心して生活できる環境を整える

実施内容

- 6月に居室壁面工事を行い、生活環境を整えた。また令和5年3月には男子棟に仕切り戸を設置した。地域利用者の過ごし場の確保するため、かいつぶりに内衝立等を用いて、活動場所と休憩場所を整理するなど構造化を行い、利用者にとってもわかりやすい環境を整備した。

3 事業・活動報告

(1) 日中活動（生活介護・施設入所支援）

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、男性利用者は男子棟ホールとかいっぷりを、女性利用者は女子棟ホールと作業棟を使用するなど、男女棟別で活動を行った。
- ・気分転換や健康維持のために可能な範囲で午前の活動前にラジオ体操を行い、終了後に男子棟はグラウンド歩行（雨天時等は棟内歩行）、女子棟は棟内歩行（管理棟～女子棟間）を実施した。

(2) 行事等

- ・作品展示、出展・・・ ぴかつ to アート展に応募（入選3名）
- ・余暇支援 …… ドライブ、買い物外出（外出自粛一部解除）、DVD・動画鑑賞、GW・お盆・年末 年始等の余暇提供

月日	行 事
4月9日、12日	花見（男子棟：9日）（女子棟：12日）
6月2日	かすみ会まつり代替行事
6月23日～7月6日	参議院選挙期日前投票（稲枝支所）（37名）
8月13日、14日	お盆のお楽しみ会
9月7日	彦根市敬老行事
10月20日	お楽しみビンゴ大会（家族の会旅行代替行事）
11月2日	レクリエーション
12月23日	クリスマス会
1月14日	新年会

4 その他

(1) 苦情・事故対策

	件数	内 容
事故報告	4件	・転倒による頭部打撲 2件 ・他害による頭部打撲・外傷 1件 ・転倒による骨折 1件
苦 情	4件	・支援内容に関する要望 3件 ・地域利用者からのサービス利用（コロナ対応）に関する要望 1件

(2) 危機管理（防災）

実施日	訓練内容
5月27日	通報・避難・消火
7月8日	通報・避難・消火（夜間想定）
11月17日	避難訓練（水害想定）・防災用機器類の点検
2月16日	消火・搬送 彦根消防本部南分署署員来寮

(3) 会議

ア 運営会議

月日	内容	月日	内容	月日	内容
4月13日	感染症・事務分掌等	5月9日	コロナ感染症等	7月13日	感染症、エフォーム等
8月31日	感染症対策	10月12日	虐待防止・BCP等	1月11日	R5事業計画等
2月22日	感染症5類・事業計画	3月24日	外出等制限緩和		

イ 職員会議

- 令和4年8月12日（書面） 身体拘束等適正化、労基の調査結果報告、ベースアップ等
 令和5年3月23日 令和5年度事業計画、年間スケジュール、処遇改善加算手当等

ウ 身体拘束適正化委員会

令和5年2月28日

身体拘束が必要な利用者の現状と今後の方策

(4) 研修

新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの研修が集合研修からZ o o mなどのオンラインやオンデマンド形式の研修となった。

ア 虐待防止関係研修

月 日	内 容	場所	人数
7月17日	滋賀県地域活動、就労支援事業所虐待防止研修会	草津	1名
1月11日	滋賀県障害者虐待防止・権利擁護研修	オンライン	1名

イ 人材育成

月 日	内 容	場所	人数
7月6日、22日、26日	滋賀の福祉人研修（中堅期）	草津	1名
8月2日、2月24日	メンター育成研修	草津	1名

ウ 専門的研修

月 日	内 容	場所	人数
8月1日	てんかん講座	オンライン	1名
10月25日	湖東 食と栄養を考える会	オンライン	1名
2月23日、24日	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	オンライン	1名
3月3日、4日	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	オンライン	1名
3月8日	サービス管理責任者更新研修	大津	1名
3月15日	サービス管理責任者更新研修	大津	1名

エ その他

10月17日	栄養士情報交換会	オンライン	1名
10月28日	看護職情報交換会	オンライン	1名
11月 4日	湖東地域障害者自立支援協議会シンポジウム	彦根	1名
11月17日	安全運転管理者講習	彦根	1名

(5) ボランティア

- ・稲枝東みずほグラウンドゴルフクラブ（5月）
- ・彦根5人の会（7月）

(6) 実習・研修の受け入れ

令和5年2月 6日～16日	びわこ学院大学短期大学部 2名
令和5年2月20日～3月2日	京都華頂短期大学 2名

- ・10月の滋賀県総合教育センターの初任者経験者研修（特別支援学校）は、新型コロナウイルス感染（拡大）防止のため中止となった。

5 医務

- ・感染防止対策で新型コロナワクチンは令和5年1月5日に5回目接種をまた、インフルエンザ予防接種は、11月4日に実施。インフルエンザの罹患者はなかった。
- ・出勤後各棟を巡回し利用者の反応などを観察した。さらにバイタルサイン、食事、排泄、睡眠の状況等情報収集し、必要時医療に繋げるようにした。
- ・利用者の健康状態は年3回発行している「医務だより」で家族、後見人などに伝え健診結果も同封している。春の医務だよりでは施設で行う健康管理の内容を伝え理解していただくようにした。
- ・利用者健診は4月と10月に施行した。また令和4年度は乳がん検診を行い、対象者11名中9名が

受検され、結果全員異常なしだった。6月には胸部検診で全員レントゲン検査を受けられ、結果1名は呼吸器科フォローを継続した。歯科検診は令和5年1月に、口腔衛生、定期歯科通院の資料とした。

- ・彦根市より風疹抗体検査、C型肝炎検査の勧めがあり対象利用者の家族に情報提供し、意向確認後受検してもらい結果を随時報告した。
- ・職員の健康管理として健診結果を産業医に報告、必要時面談時間を設けた。

<通院の状況> R4年4月1日～R5年3月31日

単位 人

診療科目	内科	外科	脳外科	精神科	皮膚科	歯科	泌尿器科	整形外科	神経内科	呼吸器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	救急外来
延	73	27	5	1	35	70	32	24	4	16	3	46	27	1

<入院の状況> R4年4月1日～R5年3月31日

診療科目	内科	外科	脳外科	精神科	皮膚科	歯科	泌尿器科	整形外科	神経内科	呼吸器科	眼科	耳鼻咽喉科	救急外来
延		2	1				1	1			1		

- ・コロナ禍の入院で面会禁止措置により、利用者に会えず状態や情報を把握することが困難だった。

6 給食

- ・利用者の高齢化・重度化に対応するために栄養ケアマネジメントの強化を図り、多職種できめ細かく食事摂取状態を把握し、栄養ケア会議を定期的で開催し改善を行った。
- ・昼食を中心に栄養士が食事の観察を行い、実際に利用者の摂食状況を確認し、利用者一人一人にあった食形態を見直すことができた。
- ・毎週金曜日、利用者に献立表を渡す際にリクエストメニューを聞き実際に献立に反映した。利用者献立表にはリクエストメニューは太字で記し、食育に向けた内容も記載した。
- ・新型コロナウイルス感染対応では、昨年度の経験から今年度は Disposable 食器（使い捨て食器）で食事を提供し、ウイルスを厨房に持ち込まないように対策した。トレーだけは普段の物を使用せざるを得ないことや、コスト面、ゴミの問題は課題であるが支援の現場からは好評であった。

食事形態

主食/副食	主 食		副 食				割合
	おかゆ	軟飯	ペースト食	刻み食	粗刻み食	普通食	
男子 26	0名	3名	0名	2名	7名	17名	34.6%
女子 19	2名	0名	0名	4名	9名	6名	68.4%

※副食の割合とは普通食以外の食事を提供している利用者の割合をいう。

摂取栄養量

	エネルギー (Kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	塩分量 (g)
基準量	1750	50.0	45.4	600	9.0
かいげ寮平均	1753	73.7	46.4	570	7.9

1 総括

令和4年度の上半期は、前年度に引き続き、事業所やご家庭への訪問を自粛し、ケース会議をオンラインで行うことが普通となり、電話やメールなどを中心とした利用者対応を行ってきた。下半期は、会議や訪問が少しずつ緩和されるようになると、電話で伺った状況がかなり深刻で、サービス利用を自粛されたためにご家族が疲弊されている状況にあることがわかってきた。

「お会いしてお話を聞く」ということが、思った以上に大切であり、お聞きした情報を速やかに関係機関に伝えることが、円滑なサービス提供やサービス調整に必要であることが再確認できた。

圏域の特徴として、「サービス利用を希望する障害者に計画相談支援を100%つける」という目標は達成されたが、サービスの利用希望者は年々増加の一途をたどるが、相談支援専門員が足りない現状にある。

新年度から新たなサービスを使いたいと願う方々に十分な対応ができておらず、また障害特性上スムーズに介護保険への移行ができるケースもまだまだ少ないため、児童発達支援（療育教室）や放課後等デイサービスを利用したいと希望されている新規利用者に不安な思いを抱かせているのではないかと案じられる。「障害福祉サービスから介護保険への移行」「相談支援専門員を含む福祉事業者の人材育成」「障害福祉サービスだけでは解決できない課題（8050問題、引きこもりなど）について、多業種と交流して解決策を探る」といった、職種をこえた課題解決に地域をあげて取り組んでいく必要があり、サービスを必要としている方に適切な提供が行われる流れにつながると思われる。

2 重点課題に取り組んだ事項

(1) 他機関と連携し、利用者にとって適切なサービス提供・調整を行う

実施内容

- ・感染防止対策を行ったうえで継続的なケース会議や情報共有を行うなかで、障害のある人と取り巻く家族それぞれの事情や新たな問題が出てくることもみられたが、介護、子育て等横のつながりが増えるなかで活発な意見が交わされ、新たなサービス利用につながるきっかけになった事例もあり、今後も積極的に取り組む。

(2) 多様な相談に対応できるよう、自己研鑽を継続して行う

実施内容

7月30日	滋賀県高次脳機能障害支援センター研修会 「認知症・精神疾患・高次脳機能障害の見分け方～地域生活に必要なケアやサービスとは～」
8月11日	滋賀県発達障害者支援センター 発達障害の理解を広げるための県民講座 「ひきこもりと発達障害」
11日	滋賀県発達障害者支援センター 発達障害に関する支援者講座 「就労支援」
22日	湖東地域高次脳機能障害連絡調整会議 研修会
9月21日	湖東地域障害者自立支援協議会 相談支援専門研修
24日	滋賀県高次脳機能障害リハビリテーション講習会 「地域で育てる子どもたち」
28日	滋賀県発達障害者支援センター 発達障害に関する支援者講座 「家族支援」
10月20日	滋賀県発達障害者支援センター 発達障害に関する支援者講座 「教育」
24日	湖東圏域障害者自立支援協議会「自閉症に関する研修会」
27日	就労パスポート支援機関向けワークショップ（ハローワーク彦根主催）
11月18日	令和4年度 滋賀県地域定着支援センター 公開シンポジウム
19日	湖東地域障害者自立支援協議会
30日	重心部会研修湖東地域障害者自立支援協議会 研修 「ノゾキミ！卒業後のセカイ」
12月13日	彦愛犬権利擁護サポートセンター 成年後見制度関連啓発講座
15日	相談機関交流会 「ヤングケアラーへの支援について」
23日	滋賀県発達障害者支援センター 発達障害に関する支援者講座 「アタッチメント」

1月19日	湖東地域障害者自立支援協議会 行動障害部会
31日	研修相談機関交流会 「8050問題を考える」

令和4年度 計画相談支援利用者内訳 単位 人 (令和5年3月31日現在)

	かいぜ寮	グループホーム	つばきはらファクトリー 含む地域利用者	合計
彦根市	24	1	67 (18)	92 (18)
豊郷町	1		7 (2)	8 (2)
愛荘町	4	1	34 (22)	39 (22)
甲良町	1		4 (1)	5 (1)
多賀町		2	3 (1)	5 (1)
東近江市	5	1	1	7
近江八幡市	3		1	4
日野町	1			1
京都市	1			1
甲賀市	1			1
長浜市	1			1
合計	42	5	117 (44)	164 (44)

※ () 内は児童 (再掲)

※就労アセスメント利用者を含む

令和4年度 障害者相談支援事業 (市町からの委託事業) 実績

	彦根市	豊郷町	愛荘町	甲良町	多賀町
障害者	52	5	11	3	2
障害児	8	2	9	1	0
実人数計	60	7	20	4	2
件数	297	26	43	8	12

令和4年度 グループホーム「サンコスモ滝井」「そよかぜ」 事業報告

1 総括

利用者の状況は、サンコスモ滝井で新規の入居1名があり、定員11名（サンコスモ滝井：5名、そよかぜ：6名）に対し満床となった。

健康管理について、必要に応じて利用者の通院に同行するなど、健康的な生活が送れるよう支援した。利用者の高齢化による住環境への適応と、通院付添が増えていることが課題である。

新型コロナウイルス感染症感染防止対策では、関係機関と濃厚接触者や感知情報を共有しながら、必要に応じてギャラリー滝井を利用するなどして個別に利用者対応を行い、出来るだけ感染を上げない対応に努めてきた。しかし年末から正月にかけて、そよかぜで新型コロナウイルス感染者が1名発生し、ギャラリーでの隔離対応を行った。法人内各事業所と連携をとって対応し1名の感染に押さえられ重症化することなく乗り越えることが出来た。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 利用者理解を深め、虐待防止に取り組み、権利擁護意識の浸透を図る

実施内容

- ・世話人会議を通じて、利用者個々の特性について理解を深めた。また、利用者の意向を大切に、自立支援の観点から、世話人と話し合い、検討を行った。
- ・身体拘束適正化委員会を実施。3要件の確認等を行った。
- ・厚労省手引書（抜粋）を配布。障害者虐待5類型の確認と事例の確認を行った。

(2) 利用者の意向を大切にしながら、家庭的な雰囲気を継続し、快適な暮らしができるよう支援する また利用者の高齢化に伴う環境面での課題を整理し、リスク軽減を図る

実施内容

- ・居室環境が本人にとって使いやすくなるように提案し、環境を整えた。
- ・スリッパ等身の回りの物について、必要に応じて買い替えを提案し、清潔で快適な環境を整えている。購入に際しては同行し、本人に選んでもらえるようにした。
- ・季節に応じたイベントを企画。利用者を楽しんでいただいた。

(3) 障害特性に配慮しながら健康で自立した生活がおくれるよう働きかけていく

実施内容

- ・手術が必要となった利用者に対し、術後安定するまで通院等のケアを行い、水虫・肌荒れなどを確認し、必要に応じて皮膚科通院の対応をした。
- ・個々の健康状態を観察し、その推移に合わせてかかりつけ医に相談し、治療計画を立てて対応した。
- ・新たに定期通院が必要な方に対しては、外部サービスを活用して定期通院できるよう調整した。

3. 入居者への支援内容等

(1) 支援内容

(生活環境)

- ・肌着や下着、季節に応じた衣類の買い替えなどを利用者とは相談しながら実施し、利用者が快適な生活が送れるよう配慮した。
- ・古くなってきたカーペットや寝具も利用者とは相談しながら必要に応じて買い替えを実施し、清潔で快適な環境が保てるよう支援した。
- ・共有スペースにも季節に応じた飾りつけを行い、季節を感じ楽しめる生活空間づくりを実施した。

(保健衛生)

- ・毎日、睡眠時間や体重測定、検温など業務日誌に記録、健康状態の共有、管理を行った。
- ・利用者に発熱があった際には、かいぜ寮の医務とも連携し、受診対応など行った。
- ・新型コロナウイルス感染症にたいしては、必要に応じて、居室やギャラリーにて個別対応をするな

ど、感染を拡げない対応を行い、他利用者も含め安心して生活を継続していただけるよう配慮した。
(食事)

- ・食材宅配業者の管理栄養士による献立を参考に、利用者の嗜好や健康状態に配慮して提供した。
- ・季節ごとの行事に合わせ、特別な食事を楽しんでもらった。

(余暇)

月日	内容	場所	参加者	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
4月14日	お花見	各ホーム	4	6
6月2日	創立記念パーティー	各ホーム	4	6
7月7日	七夕飾り	各ホーム	4	6
10月31日	ハロウィンパーティー	各ホーム	5	6
12月22日	クリスマス会	各ホーム	5	6
1月5日、9日	多賀大社初詣	各ホーム	3	2
2月3日	節分 豆まき	各ホーム	5	6

(社会参加について)

月日	内容	場所	参加者	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
7月3日	参議院議員選挙	稲枝支所	1	0

(地域生活、職場における問題への対応について)

- ・利用者の通所先と連絡を取り合い、また連絡ノートも活用し、情報共有を図った。
- ・報連相を徹底し、スタッフ間で課題を共有しながら解決にあたった。

(相談)

- ・職場の人間関係の相談、携帯電話の契約に関する対応などがあったが、いずれも本人から詳しく状況を聴き取り、安心感を持てるよう相談に応じた。必要に応じて関係機関と連絡、相談をしながら対応した。
- ・欲しい物、やりたいことに関する相談には、本人の意思や要望を尊重して、買い物支援や実現へのサポートを行った。
- ・利用者の相談内容については記録に残し、世話人会議等で共有し、支援者間で対応を協議した。

(個別支援計画)

- ・利用者の受給者証の更新の時期に合わせて支援計画の見直しを行った。
- ・利用者の意思を充分尊重できるように、利用者から聞き取りを行い、個別支援計画に反映させた。

(家族・後見人等との連携)

- ・連絡ノートを用いて日々の様子など報告するとともに、歯科等医療面の相談や、本人の希望に基づく高価な買い物の相談など、連携して対応をした。

(2) 世話人について

- ・毎月、世話人会議を開催しホームでの利用者の様子などの情報を共有し、対応方法などについて検討を行った。
- ・世話人から日々の相談を受けつけ、世話人会議を通じて情報共有し、課題の解決を図った。
- ・行事で特別な対応が必要な時には、事前に段取りを世話人と協議し、落ち着いて対応出来るようにした。

(3) 防災・防犯について

令和4年 7月28日 水害想定避難訓練

令和4年 11月28日 火災想定避難訓練

令和4年度 つばきはらファクトリー 事業報告

1 総括

令和4年度も新型コロナウイルスの感染予防対策を図った。感染者は見られたが、クラスターを起こすことなく運営することができた。行事は、施設内で行える行事はできる限り行った。バーベキューや旅行については、感染状況が落ち着かなかったため中止した。

就労収入は、製造業が回復しつつあるものの、半導体不足の影響で自動車の製造が伸びなかったため、企業からの作業量が増えなかったが、他企業の作業が増えたことで、今年度は工賃変動積立金を崩すことなく、平均工賃月額が25,242円から25,320円と微増ではあるが向上した。

就労移行支援事業では、令和4年度より新規利用者が2名あったが、利用期間が短く就労まで結びつかなかった。また、就労アセスメントは7名の利用があり、実習やアセスメントで利用者を受け入れる中で、利用者の各自の作業能力に差はあるが、内面的な面でのサポートが必要な方が多く見られた。

就労定着支援は1名の利用者が、3年の支援を終えることができ、その後も継続して就労している。その他2名の利用者が、継続して定着支援事業を利用し、面談を行う中で仕事面や生活面での悩みを聞き、本人では解決が難しいものについては関係者と連携し解決を図った。令和4年度は退職者を出すことなく支援することができた。

令和4年度は、感染に気を付けながら重要な研修には、積極的に参加をした。対面の研修では、リモートでは感じられない雰囲気や直接受講者と話せることで、他の施設の状況が聞け、リモートにはない学びがあった。

2 重点課題に取り組んだ事項

(1) 一人でも多くの方が、一般就労し、定着できるように支援する

実施内容

- ・2名の利用があり、就労に向けて勉強会や、ハローワークの登録、働き暮らし応援センターの登録を行った。また、数社の企業見学や企業体験を行った。
- ・職場復帰の方については、体調に配慮しながら作業や利用日数を調整し、心理的なサポートを行った。

(2) 利用者が安定して確保できるようにする

実施内容

- ・多くの利用者は、実習やアセスメントをすることで利用につながっている。令和3年度に実習やアセスメントを受け入れたことで、令和4年度の新規利用者は増えた。それに伴い、利用者数も若干増えた。
- ・令和4年度は企業を休職している方を初めて受け入れた。

3 就労支援事業活動について

	請負作業等	内 容
下請け	弘陽工業(株)	ボルト組み立て・袋詰め・検品
	株式会社くすかみ	タオル箱詰め・検品 検針
	ジョイソン・セイフティ・システムズ・ジャパン(株)	シートベルトの部品組み立て
	水谷醤油醸造場	醤油フタ閉め・検品
	宮川バネ工業(株)	バネの組付け
メンテナンス	聖泉大学	清掃作業
	かいぜ寮	清掃作業
その他	古紙回収	ダンボール回収
	農業組合法人 ファームかいぜ	苗箱洗い
	有限会社 山本設備工業	除草作業
	自主製品	和つふる

4 苦情処理・事故

事故報告	0件	
苦情報告	2件	職員対応1件 支援に関する内容1件

5 虐待防止

実施日	内容
2月10日	身体拘束適正化委員会

6 行事について

日 時	内 容	場 所	利用者参加
4月7日	お花見	かいぜ寮	18名
10月10日	輪投げ大会・映画鑑賞	交流施設こもれび	16名
1月5日	初詣	海瀬町八坂神社	19名

7 避難訓練の実施

実施日	訓練内容	参加状況	
		利用者	職員
5月16日	消火・通報・避難	18名	8名
6月13日	水害訓練	19名	10名
19月24日	消火・通報・避難	21名	8名

8 外部研修について

日 時	内 容	場 所
7月17日	滋賀県地域活動・就労支援事業所協議会障害者虐待防止研修会	キラリエ草津
10月27日	就労サポート支援機関向け活用ガイドライン	ハローワーク彦根
11月15日	食品衛生講習会	彦根市南地区公民館
11月17日	安全運転管理者研修	ひこね市文化プラザ
12月8日	サービス管理責任者研修	近江八幡文化会館